春彼岸の由来

彼岸とは極楽浄土

もうすぐ春のお彼岸（ひがん）です。暑さ寒さも彼岸までといいます。暖かくなるのが待ち遠しいですね。

「彼岸」とは、こちら側の岸（現在私たちが生きている世界）に対する、向こう側の岸、つまり極楽浄土を意味します。

春彼岸は、春分の日を中日（ちゅうにち）とする前後三日間の計一週間に行われます。

法然上人が浄土宗を開く上で師と仰いだ中国の善導大師（ぜんどうだいし）が「春分と秋分の日には太陽が真西に沈むので、日没の彼方にある極楽浄土を想い、敬慕の心を持つべきである」と説いているように、太陽の沈む方角に向って、必ず極楽浄土に往生したいと決意を新たにするのが「お彼岸」なのです。

自然をたたえ 生物をいつくしむ

「国民の祝日に関する法律」には、春分の日は**「自然をたたえ、生物をいつくしむ」**日とされています。

春は季節を肌で感じやすい季節です。芽吹く草花に命を感じ、それを楽しむ。そして自分の周りのご縁の方々に、いつくしみの心（慈悲の心）をふりむけ、仲良くしましょう。

さらには、命を繋（つな）いでくれたご先祖さまに改めて感謝しましょう。

住職が知恩院でお説法します！

法蔵寺の総本山、京都の知恩院では、毎日布教師によるお説法が行われています。浄土宗を代表する布教師が、リレーのようにお説法を続けることから**『輪番（りんばん）説法』**といいます。この度、当山住職に輪番の布教師として依頼がきました。大変名誉な事です。今年の四月十日～十三日の期間です。どなたでも自由に聞くことができます。京都はちょうど桜の時期です。機会があればぜひお運び下さい。

エンディングノート

この度、浄土宗から**『縁（えにし）の手帖』**という、いま話題の「エンディングノート」が発刊されました。自分の生い立ちや医療、財産やお墓についてなど、自分にしか分からないことを書き残せます。残された家族を悩まさないためにも、来たるときの為の準備が大切です。興味のある方はお寺まで！

1冊200円

←目次

≪これまでの私≫
1、私のこと　2、今までを振り返って
≪これからの私≫
3、これからの過ごし方
4、伝えてゆきたい言葉―反省と感謝
≪考えておきたいこと≫
5、介護について　6、医療について
7、お墓について　8、財産、ペットについて
≪共に往くために≫
9、旅立ちの前に　10、葬儀について
11、法名(いわゆる戒名)について
≪縁の記録≫
12、うちの過去帖　13、葬儀の記録
14、法事の記録　15、備忘録